4　医療経理

貸借対照表の要旨

（平成22年３月31日現在）　（単位：百万円）

借方		金額	貸方		金額
流動資産		67,629	流動負債		22,785
現金・預金	36,862		未払金	20,823	
その他	30,767		その他	1,962	
固定資産		123,303	固定負債		86,200
有形固定資産	123,045		長期借入金	49,507	
無形固定資産	6		引当金	36,692	
投資その他の資産	252		基本金		0
繰延資産		514	基本金	0	
			剰余金		82,460
			資本剰余金	21,803	
			利益剰余金	60,657	
資産合計		**191,447**	**負債・純資産合計**		**191,447**

㈱　有形固定資産の減価償却累計額は、138,344百万円である。

損益計算書の要旨

（自　平成21年４月１日　至　平成22年３月31日）　（単位：百万円）

損失		金額	利益		金額
経常費用		157,638	経常収益		162,793
事業費用	156,488		事業収益	156,173	
引当金等繰入	249		補助金等収入	4,364	
事業外費用	900		受入金	2,042	
特別損失		3,502	引当金等戻入	182	
当期利益金		11,729	事業外収益	30	
			特別利益		10,076
合計		**172,869**	**合計**		**172,869**

㈱　当期利益金11,729百万円は、国家公務員共済組合法施行規則（昭和33年大蔵省令第54号）第82条の規定により、欠損金補てん積立金として、さらに残余があるため規則第84条第１項の規定により、積立金として整理する。

重要な会計方針等

１．たな卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品　先入先出法による原価法によっている。

２．固定資産の減価償却方法

有形固定資産は、国家公務員共済組合法施行規則（昭和33年大蔵省令第54号。以下「規則」という。）第68条の規定により、無形固定資産は、規則第69条の規定により定額法により行っている。なお、減価償却累計額は次のとおりである。

有形固定資産　138,344百万円

３．引当金の計上基準

⑴　貸倒引当金

未収金の貸倒れによる損失に備えるため、規則第76条の規定により、事業に係る未収金の年度末残高に対する１／100を計上している。

⑵　退職給与引当金

国家公務員共済組合連合会（以下、「連合会」という。）に使用される者の退職手当の支払いに充てるため、連合会に使用される者が期末において退職した場合に支給される基本額の全額を計上している。

⑶　災害補てん引当金

有形固定資産について、災害その他の事故による将来の損害に対する準備のため、規則第74条の規定により、所要の金額を計上している。

⑷　特別修繕引当金

事業に使用している施設について、翌事業年度以降に大規模の修繕をすることを予定しているため、規則第77条の規定により、所要の金額を計上している。

４．その他財務諸表作成のための重要な事項

⑴　消費税の会計処理方法

税込方式によっている。

⑵　繰延資産の処理方法

開発費

５年間で均等償却している。

5　宿泊経理

貸借対照表の要旨

（平成22年３月31日現在）　（単位：百万円）

借方		金額	貸方		金額
流動資産		4,874	流動負債		1,900
現金・預金	3,744		未払金	1,272	
その他	1,129		その他	628	
固定資産		42,282	固定負債		38,495
有形固定資産	42,260		長期借入金	35,712	
無形固定資産	1		引当金	2,782	
投資その他の資産	20		基本金		0
繰延資産		12	基本金	0	
			剰余金		6,772
			資本剰余金	2,157	
			利益剰余金	4,615	
資産合計		**47,169**	**負債・純資産合計**		**47,169**

㈱　有形固定資産の減価償却累計額は、53,303百万円である。